

さて、漢字を「これは“象”これは“猿”」と、カードで示すだけでも、子どもは驚くほどの吸収力、記憶力を発揮し、どんどん覚えていきます。子どもにとって身近な名詞の場合、この方法でも十分に成果は表われますが、形容詞、動詞の領域に入っていきますと、どうしてもやりにくさが出てきてしまいます。そこで、以下に書かれたような様々な遊び方が参考になるでしょう。それに、カードを示す場合でも、単にその漢字を読みあげるだけでなく、色々なものや状況と関連させて提示すれば、よりいっそう印象的に記憶されるはずですし、同時に遊び方が変化に富んでいけばいるほど、子どもにとって楽しさも増すというわけです。

ここでは、大体のところ、別巻の漢字カードの配列にならい、そして、子どもの発達の段階に沿って、おおむね、やさしい遊び方から比較的むずかしい遊び方へと、順次に配置してあります。もちろん、この配列が絶対の基準であるわけではありません。あくまで目安と考え、臨機応変に、子どもが示す興味と関心に応じて、遊び方を選択し、工夫したりしてください。ただし、留意していただきたいのは、その「やさしい、むずかしい」という意味は、決して漢字のやさしさ、むずかしさとイコールではない点です。石井先生が実証されているように、子どもに

とって虫より蟻が、鳥より鳩がはるかに“やさしい”漢字なのです。字画数や字の複雑さからいえば、その逆ではありますが、虫一般、鳥一般はこの世に存在しません。あくまで抽象的な概念なのです。ところが、子どもには、蟻や鳩は最も身近で具体的で、いってみれば日常的に見聞きする生きた存在なわけですから、なんとも容易にその漢字を覚えることができるのです。

それでは、こうした身近なところから、子どもと漢字で遊び始めてみましょう。

### 一日十分でも毎日続けよう

「漢字で遊ぶ」にはどのようなやり方があるのか、どうしたら楽しく、効果的にできるのか、という本題に入ります。

忙しい日々の中で、子どもと遊ぶ時間もそうそう長くは取れないかも知れませんが、いずれにしても、短時間であっても毎日欠かさず遊んであげたいものです。一日にほんの十分でもかまいません。それなりの方法はあるのですから。とにかく実行することが大切なのです。